

知の回廊 2010年度新タイトル放送スタート

【今月の放送内容】

APEC(アジア太平洋経済協力)は、アジア太平洋地域における21
 万国が加盟する世界最大の地域経済の市場です。APECの主要な活
 動は、貿易と投資の自由化、ビジネスの円滑化、経済-技術協力です。

世界貿易や国境を越えて企業活動を展開する直接投資は、企業間
 の国境を越えた資材や部品調達などの中間財取引が大きなウエイト
 を占めています。アジア太平洋地域における経済的な繁栄は、こうし
 た貿易コストを軽減・撤廃し、シームレスな(繋ぎ目のない)市場のイ
 ンフラストラクチャーをハードとソフトの両面で整備していくことにか
 かっています。2010年に議長国としての日本で開催されるAPEC
 会議では、この地域的な発展に向けた枠組み整備に対する日本のリ
 ーダーシップが期待されます。

この講義では、変化する世界経済の中で、APECと日本がどのよう
 な役割を担うのかを考えることにします。

**10月 中央大学教養番組
 知の回廊**

**変貌する世界経済の中のAPEC
 ~日本の期待される役割~**

地上111 JCNプラスチャンネル
 月・水・金 22:30~他



監修
 中央大学 経済学部
 長谷川聡哲教授

【今月の放送内容】

コンピュータと情報技術の進歩により、21世紀はコピキタス
 社会の到来を迎えようとしています。コピキタスとは、あらゆるモ
 ノや場所に小型のコンピュータが埋め込まれてネットワーク化さ
 れた情報環境です。しかし、「無数のコンピュータを使いこなそう」
 といつも考えながら生活するのでは、息が詰まってしまうです。

複雑化・多様化する社会においては、個人の趣味や嗜好、その
 時の気分などを的確に読み取り、それを解釈して、TPOに応じた
 適切な対応をすることができ、すなわち、人の感性を理解す
 るための仕組みが求められているのです。

このような分野の研究を「感性工学・ヒューマンメディア工学」
 といいます。人の感性をコンピュータに理解させることで、いつで
 も、どこでも、だれもが、簡単に情報サービスを受けることがで
 きる、人にやさしいコピキタス情報社会の実現を目指した研究が進
 められています。

**11月 中央大学教養番組
 知の回廊**

人にやさしい情報社会を目指して

地上111 JCNプラスチャンネル
 月・水・金 22:30~他



監修
 中央大学
 理工学部
 加藤 俊一教授

【今月の放送内容】

どの歴史をひもといてみても、その時代を象徴する『病氣』という
 ものがあります。『進歩の世紀』と呼ばれる19世紀。この時代を象徴
 する伝染病はコレラでした。1817年、コレラは突如として世界的に
 流行、いわゆるパンデミックが起こり、コレラ菌が全世界にばらまか
 れることになったのです。日本でも1822年(文政5年)に初めてコレラ
 が上陸しています。

1830年代、コレラは世界中で猛威をふるいました。ヨーロッパ全
 土がひとつの疫病に同時に席卷されたのは、黒死病以来これが初めて
 のことでした。当時のヨーロッパの大都市は、急激な人口増加のために、
 それまでの都市構造が飽和状態となり、新しい都市生活のあり方が模
 索されていました。そこに出現したコレラは、新しい都市づくりへの
 大きなきっかけとなったのです。

今回は、19世紀初頭のイギリス都市環境が、コレラの流行によっ
 てどのように変容していったのかを探ります。

**12月 中央大学教養番組
 知の回廊**

**コレラ・パンデミック
 ~疫病による英国都市の変容**

地上111 JCN プラスチャンネル
 月・水・金 22:30~他



監修
 中央大学
 文学部
 見守雅俊教授